



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	ヤマハ発動機株式会社 35号館	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3	/5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5		ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.6	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.3	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①外壁・屋根の高断熱化及びLow-E複層ガラスの採用 ③ブラインドとルーバーの組み合わせにより制御 ④耐用年数の長い内装仕上げ材を使用 ④主要な用途上位3種にVB管、高密度ポリエチレン管、耐火二層管を使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑥既存建物を含めた外構植栽計画 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦外壁・屋根の高断熱化 ⑧自然通風の利用 ⑨高効率空調機、全熱交換器の採用 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水型便器・擬音装置(女性トイレ)の採用 ⑪井水の雑水利用 ⑫タイルカーペット、ビニル床タイル・シート ⑫躯体と仕上げの分別可能、OAFフロア・可動間仕切りの採用 ⑬有害物質を含まない錆止めの利用 ⑬窒素ガスの採用 ⑬GWPが低い断熱材の採用 ⑬R32冷媒ビル用マルチエアコンの採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮隣棟間隔指標Rw2以上 	<ul style="list-style-type: none"> Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善 			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	3.1
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰節水型大便器の採用、井水の雑水利用、受水槽への緊急遮断弁設置 ⑰耐震クラスA 	<ul style="list-style-type: none"> Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備 		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲執務室フロアの階高4.5m ⑲壁長さ比率0.16 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑地域性への配慮、快適性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上 			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.6
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤生物環境の保全と創出 ㉒まちなみ景観への配慮 ⑥敷地内温熱環境の向上 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑫持続可能な森林から産出された木材 ⑮温熱環境悪化の改善 	<ul style="list-style-type: none"> Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善 			

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤマハ発動機株式会社 35号館	階数	地上7F
建設地	静岡県磐田市新貝2500番地	構造	SRC造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	360 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,214 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年7月 予定	評価の実施日	2025年12月20日
敷地面積	169,406 m ²	作成者	内藤 正隆
建築面積	2,116 m ²	確認日	
延床面積	11,444 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 建物の高断熱化・高气密化を図り、さらに各種省エネ技術を組み合わせることで、高い省エネ性能を実現。これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		0
Q1 室内環境 空調・照明制御等の省エネ技術の導入や吹抜けを利用した自然通風や自然採光などにより快適な室内環境の実現を図った。	Q2 サービス性能 執務室は整形なワンルーム空間とし、将来のレイアウト変更に対応できる計画とした。メカニカルバルコニーを設置することで、設備の更新性やフレキシビリティに配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺環境と調和した建物・外構計画とすることで良好な室外環境を確保している。
LR1 エネルギー Low-E複層ガラス・バルコニー等により建物の熱負荷抑制を図り、各種省エネ技術の採用により空調設備や照明設備の消費エネルギーの低減を図った	LR2 資源・マテリアル 節水型器具の採用、再生材、リサイクル材を使用するなど、資源の保護・削減に努めている。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される